



ザンビアの経済概況・月報(2014年5月)

主なマクロ経済指標	2013年	2014年
1. 人口 (百万人)	14.5 (est)	14.9 (予想)
2. 人口増加率 (%)	2.8(2000-2010)	2.8(2000-2010)
3. 失業率 (%)	7.8(2012)	7.8(2012)
4. 平均寿命 (年齢)	49.2(男性)/53.4(女性)	49.2(男性)/53.4(女性)
5. 実質GDP (百万米ドル)	-	-
6. 名目GDP (百万米ドル)	24,746(予想)	25,981(予想)
7. GDP成長率 (%)	6.4	7.0(予想)
8. 一人当たりGNI (米ドル)	1,358*1(2012)	1,358*1(2012)
9. インフレ率 (%)	7.1(Dec)	7.8(May)
10. 消費者物価指数 (2009年=100)	131.26	140.85(May)
11. 貿易収支 (百万米ドル)	423	6.95*2(Apr)
12. 対日貿易収支 (百万米ドル)	-80.31*4	-4.38*3(Apr)
13. 輸出 (総額, 百万米ドル)*5	10,608	864.18*2(Apr)
14. 対日輸出 (百万米ドル)	53.02*4	2.94*3(Apr)
15. 輸入 (総額, 百万米ドル)*5	10,185	857.24*2(Apr)
16. 対日輸入 (百万米ドル)	133.33*4	7.32*3(Apr)
17. 経常収支 (百万米ドル)	-1,077	-
18. 対外直接投資 (百万米ドル)	177 (2012)	-
19. 対内直接投資 (百万米ドル)	1,066 (2012)	-
20. 金・外貨準備高 (百万米ドル)	2,852 (2013末)	2,673(Feb)
21. 対外債務残高 (百万米ドル)	3,200 (2013末)	3,160(Mar)
22. 為替レート (対米ドル)	5.39ZMW*5	6.62ZMW(May)*5
23. 主要政策金利 (現行, 年利%)	9.52	12.0 (May)

※()内の年月は、その年あるいは月の確定値/予測値。 ※小数点第3位以下四捨五入

*1 購買力平価(PPP)による一人当たりGNI

*2 1USD=6.19 ZMW (2014年4月のザンビア中央銀行為替相場)を用いて換算

*3 1USD=102円 (2014年4月の日銀基準外国為替相場)を用いて換算

*4 1USD=94円 (2013年(平均値)の日銀基準外国為替相場)を用いて換算

*5 2013年1月1日から通貨クワチャのデミニメーションが実施され、1,000 ZMK (旧通貨) = 1 ZMW (新通貨)へと通貨単位が変更となった。

<出典>
1.-2., 5.-7., Country Report 2013 (EIU), The World Factbook (CIA)/3. Zambia Labour Force Survey Report, 2012 (CSO&Ministry of Labour and Social Security)/4., Census 2010 /8. UNDP Human Development Report /9.-11., 13., 15., Monthly Bulletin (CSO)/12., 14., 16., 日本国財務省貿易統計/17., 20.-21., The World Factbook (CIA)/18.-19., UNCTAD/22.-23., Bank of Zambia

主要な経済ニュース(5月)

- “クワチャの下落は、輸入増加と銅価格下落によるもの” (Post, 3日)**
ザンビア中央銀行(BoZ)は、2014年第1四半期の他通貨に対するクワチャの下落は、輸入の増大及び世界市場における銅価格の下落によるものと発表した。マイケル・ゴンドウエ・ザンビア中央銀行総裁は、クワチャの下落は、米ドル通貨の価値の上昇に関連した投資家感情の結果であると発言した。
- “財務省、経済成長に拍車をかけるべく5億クワチャ超を拠出” (Times, 5日)**
財務省は、開発促進、雇用創出及び貧困削減を達成すべく、5億6970万クワチャを拠出した。拠出された資金のうち、1億2230万クワチャが農業畜産省に割り当てられ、1億230万クワチャが農民投入支援プログラム(FISP)に、残る2000万クワチャは農作物購入に拠出される。
- “メイズの輸出禁止、解除” (Daily Mail, 5日)**
ウィルバー・シムウサ農業畜産大臣は、ザンビア政府は、メイズの輸出禁止を解除したと発表した。同大臣は、ザンビア政府は、メイズの輸出禁止を無効にする政令である政令第35号発令後に、輸出許可の発行を開始したと発言した。同大臣は、輸出に関心を寄せる業者に対し、輸出許可の取得及び、輸出が無許可であると発覚した際に逮捕されることを覚悟の上で輸出する際のリスクを認識するよう訴えた。
- “ザンビア及び日本は関係を強化させなければならない:カラバ外務大臣” (Post, 6日)**
ザンビア政府及び日本政府は、両国の貧困を根絶すべく、TICADメカニズムの効果的な利用に同意した。ハリー・カラバ外務大臣は、ザンビアと日本は、TICADメカニズムやその他の調整メカニズムを介した貧困を根絶すべく、二国間の関係向上を目標に尽力すべきと発言した。同大臣は、カメルーンのTICAD V閣僚会合において、岸田文雄外務大臣との二国間協議に出席した。
- “62%のザンビア国民、金融サービスへアクセスできず-ザンビア中央銀行、貧困層に対する金融の受け入れを求める” (Post, 12日, Daily Mail, 13日)**
マイケル・ゴンドウエ・ザンビア中央銀行総裁は、ザンビアで昨年記録されている好調な経済実績にもかかわらず、貧困層に対する金融の受け入れ(financial inclusion)が引き続き課題であると述べた。同総裁は、新たな銀行の参入及び市場プレイヤーによる製品・サービスの拡大が進展しているにもかかわらず、ザンビア社会の様々な階層が公的金融サービスへアクセスすることは未だ不可能であると発言した。
- “ザンビア政府、EPAに対する立場を決定” (Daily Mail, 12日)**
ザンビア政府は、経済パートナーシップ協定(EPA)に係るザンビアの立場を確実にすべく、調査に着手しており、EPAは各加盟国に交渉中であるために、署名が遅れている。ザンビアは、EUの構成(EU configuration)のもと、東南部アフリカ諸国の18か国の議長を務めている。ロバート・シンガ商業貿易産業大臣は、EPAに係るザンビアの立場は、今年6月に判明すると示唆した。
- “ザンビア政府、織物産業を復活” (Daily Mail, 13日)**
ザンビア政府は、織物産業の成長を復活させるべく、事務次官から構成される委員会を任命し、今年中に4000もの雇用創出が見込まれている。この決定は、シアゾンゴ・シアレンガ商業貿易産業事務次官によって発表された。
- “ザンビア政府、農業関連産業へのさらなる対外直接投資を求める” (Times, 14日)**
シンガ商業貿易産業大臣は、ザンビア政府は、同国の農業関連産業の基盤の構築を目標とする対外直接投資の誘致に焦点をあてている旨を発言した。同大臣は、こうした基盤構築は同国の経済成長を促進するうえで重要であり、ザンビア政府は、そうした基盤構築の助けとなる海外投資促進に、今年焦点をあてている旨を強調した。同大臣は、市民経済エンパワーメント委員会が郡レベルでの投資の招致を総括する旨及びザンビア開発庁が海外直接投資の促進に取り組む旨を発言した。
- “ザンビアの経済見通しは明るい” (Times, 15日)**
世界的な格付け機関であるムーディーズは、鉱業における海外直接投資(FDI)およびサービス業、製造業、建設業の好調によって支えられているザンビアの経済見通しをB+と格付けした。アレクサンドラ・ムーサヴィサデ副社長兼アナリストは、過去5年間で平均6.5%という好調なGDP成長及び1,683ドルという2012年の国民一人あたりのGDPが、ザンビアの経済実績を固めた背景であると発言した。同氏は、堅実かつ安定した経済成長は、政治的安定という財産により維持されており、比較的好調なマクロ経済政策枠組み及び公的投資によって駆り立てられていると発言した。
- “ザンビア政府、実質GDP成長率を7%と予測” (Daily Mail, 16日)**
ザンビア政府は、2014年の実質GDP成長率は、前年比0.6%増の7%となり、ザンビア経済は好調に成長すると予測した。また、2014年のインフレ率は一桁台に落ち着き、2013年末から0.6%減の6.5%に低下すると予測されている。チレシ・カンデタ財務省広報担当官は、同国のGDP成長やインフレ率の下落は世界的な経済成長から起因すると発言した。なお、2014年の世界的な経済成長は、3.7%と予測されている。こうした世界経済の成長は、7%という実質GDP成長率が予測されているザンビア経済にも肯定的な影響を与え、鉱業、運輸・通信、建設セクターにおける好調な実績によって、さらに後押しされるものと予測されている。
- “ザンビアの金属輸出、上昇” (Times, 28日)**
2013年のザンビアの金属生産量が2012年から約6%増加したと同時に、2013年の金属輸出額は、2012年から8.8%増の70億8600万米ドルを記録した。金属の輸出額の増加は、銅輸出額の増加に伴うものであり、財務省が発表した2013年度経済報告書によると、2013年の銅輸出額は、2012年から10.3%増の69億4100万米ドルを記録した。この増加の大部分は、輸出品の増加によるもので、2013年のザンビアの銅輸出量は、2012年から11.3%増の98万1340トンと記録した。
- “減少する外国直接投資、クワチャへ影響-ザンビア政府” (Daily Mail, 29日)**
ザンビア政府は、同国への外国直接投資の減少は、クワチャの下落に影響を与える主要因であると考えている。ロバート・シンガ商業貿易産業大臣は、直接投資の流入はわずかであり、民間セクターは、ザンビア経済の投資の増大を確実にすべく、投資参入の先陣に立つ必要があると発言した。同大臣はザンビア国内に存在する多くの法人は、さらなる投資家の創出及び誘致の助けとなるよう、投資を増加させているというよりも、資本を再循環しているにすぎないと強調した。
- “ザンビア中央銀行、クワチャの下落阻止に向けてさらなる努力” (Times, 30日)**
ザンビア中央銀行(BoZ)は、クワチャの急落を阻止すべく、法定準備率引き上げ等の緊密な金融法定政策(monetary statutory policy)の履行を継続する。ザンビア中央銀行は、主要通貨に対するクワチャ通貨の弱体化とともに、2014年末のインフレ率6.5%を目標に導入する適切な金融政策を履行すると約束した。

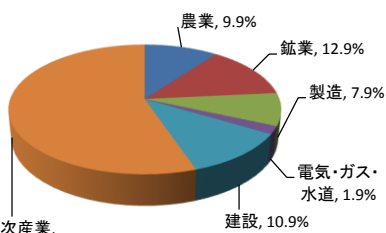
<ザンビアの税制度～鉱業関連～>

(出典:ザンビア歳入庁、ザンビア採掘産業透明性イニシアティブ(ZEITI))

- 法人税(Corporate/Company Tax):** 35%。
ルサカ証券取引所に上場している企業は30%。
- 付加価値税(VAT):** 16%。
- 採掘権料(Mineral Royalty):** 6%。
- 関税及び消費税(Customs & Excise Duty):**
関税は商品(コモディティ)毎により、0-25%と異なる。鉱業の資本設備に関しては免税(ゼロ関税)。鉱石のまま輸出する場合には15%課税される。
- 源泉徴収税(Withholding Tax):** 15%。

※鉱業権を有する者は、採掘や鉱業関連の活動に必要なとされる全ての機材に係る関税、消費税、及びVATを免除される。

GDPセクター別構成比(2010)



(出典:ザンビア中央統計局(CSO)データから当館作成)